

みどいのこだま

福島県相双農林事務所農業振興普及部
〒975-0031 南相馬市原町区錦町1-30
TEL (0244) 26-1149
FAX (0244) 26-1169
E-mail: shinkouhukyu.af06@pref.fukushima.lg.jp

震災からの地域農業の再生に向けて

相馬市程田地区の営農改善組合設立

1月16日（土）、相馬市飯豊地区の程田集落で程田営農改善組合設立総会が開催されました。同組合は、相馬市程田、百槻、大曲及び馬場野地区の一部にまたがり、東日本大震災の津波被災地域を含む約70haを活動エリアとし、集落内地権者70名のうちの51名でスタートしました。

程田集落での集落営農に向けた話し合いは、平成24年度の「経営再開マスタープラン（人・農地プラン）」作成時に行われた将来の営農に向けたアンケート調査を契機に始まり、アンケートの結果では、離農者の増加と担い手不足等により、将来、営農継続が困難になることが予想されたことから、集落営農への取組が必要であると考えられました。そこで、平成25年度から26年度にかけて集落内で話し合いを進め、平成26年度末には「程田集落営農推進委員会」を立ち上げ、営農改善組合設立に向けて取り組むこととしました。平成27年6月からは、毎月1回のペースで推進委員会を開催し、活動エリアをどの範囲にするかや担い手への農地集積・団地化をどのように取り組むか等について話し合いを進めてきました。

その後、推進委員会で話し合われた内容をとりまとめるとともに、営農改善組合の必要性について、集落の地権者や入作者に対する説明会を開催して理解を求めてきた結果、無事、集落内の合意が得られ、設立総会を迎えることができました。

今後、「程田営農改善組合」は、集落営農の基礎となる一階部分（地権者で組織する農用地利用改善団体）として、担い手の規模拡大や集落内農地の利用調整及び集積等を中心に担い手の支援を行い、集落が持続的に発展することを目指して活動を行うこととなります。具体的に、まずは「程田営農改善組合」が中心となって農地中間管理事業に取り組み、集落内農地約70haの50%に当たる約35haを「合同会社 飯豊ファーム」に、残り約35haを今後設立予定である程田集落の生産組織に集積していくこととしております。

相馬市では、「程田営農改善組合」の取組が周辺集落にも波及し、地域農業の維持・発展のため、「営農改善組合（農用地利用改善団体）」設立に向け、話し合いが始まった集落も出てきました。



写真1 程田営農改善組合設立総会の様子



写真2 程田営農改善組合役員顔ぶれ

米の全量全袋検査結果および平成 28 年産米の作付けについて

1 平成 27 年産米の全量全袋検査結果について

平成 27 年産米の全量全袋検査は、ほぼ終了しました。消費者に安心して食べていただけるための取組へのご協力ありがとうございました。

表 1 平成 27 年産米全量全袋検査状況 (H28. 1. 30 現在)

地域	検査点数	検査実績				
		25Bq/kg (測定下限値)未滿	25~50 Bq/kg	51~75 Bq/kg	76~100 Bq/kg	100Bq/kg 超過
福島県全域	10,399,379	10,398,735 99.994%	626 0.006%	17 0.000%	1 0.000%	-
相馬地域	223,204	223,157 99.979%	46 0.021%	1 0.000%	-	-

注) 詳細検査の結果を含む

また、県内における玄米の基準値超過件数は、年々減少しており (平成 24 年産米 72 点 0.0007%、平成 25 年産米 28 点 0.0003%、平成 26 年産米 2 点 0.0000%、平成 27 年産米は無し)、平成 26 年産米で基準値を超過した事例は、放射性物質吸収抑制対策を実施しなかったほ場から生産されたお米でした。

2 平成 27 年産米の全量全袋検査結果について

◆放射性物質吸収抑制対策について

米の放射性セシウムの吸収を抑制するためには、水稻の生育初期に土壌中の交換性カリ含量を高めることが重要です。平成 28 年産米の栽培についても、吸収抑制効果の高い塩化カリを慣行の基肥に追加散布してから水稻を作付しましょう。

施用量は、土壌分析結果に対応した量を基本とし、過去の米の全量全袋検査で放射性セシウム濃度が 50Bq/kg を超過した地域や除染した水田で 28 年に作付を再開する地域であるかどうかを考慮し、①相馬市、新地町は 10kg/10a、②南相馬市は 50kg/10a とします。

なお、倒伏により放射性セシウムが付着する恐れがありますので、震災後に初めて作付再開する水田では、窒素量を慣行より 5 割以下とすることや、倒伏しにくい品種 (天のつぶ) を作付することなどが重要です。

◆飼料用米の作付について

主食用米の米価下落による所得確保対策として、産地交付金等の交付単価が高い、飼料用米の取組を推進しています。

飼料用米の多収性専用品種として、ここでは、「ふくひびき」の品種特性について説明します。「ふくひびき」は、以前、主食用品種で県奨励品種として採用された極多収で耐倒伏性も極強の品種です (現在は、飼料用米の県奨励品種です)。表 2 は農業総合センター浜地域研究所で栽培された結果をまとめたものです。「ふくひびき」は、熟期は中生の早で、出穂期はひとめぼれより 3 日程度早い品種で、稈長は短く、直播栽培にも向く品種です。栽培上の注意点では、障害型耐冷性はやや弱いため、幼穂形成期 (7 月上旬頃) 以降の低温には深水管理等の対策が必要です。

また、「ふくひびき」は、脱粒性も通常の主食用米と同等で、翌春の初期除草剤の適期散布などにより、主食用品種の切り換えも問題ありません。

なお、周辺の主食用米への影響を考慮し、斑点米カメムシ類対策 (畦畔等の草刈り、及び出穂 7 日後の農薬散布) と、いもち病対策 (箱施薬使用) の徹底とともに、カントリーエレベーター等を利用した一元管理にご協力をお願いします。

表 2 ふくひびきの形質 (県農業総合センター浜地域研究所、H23~26 年平均)

品種名	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)	玄米重 (kg/a)	倒伏程度 (0~5)
ふくひびき	8/1	9/9	78.8	19.6	389	83.6	0.3
ひとめぼれ	8/4	9/13	87.5	18.5	463	60.6	1.5
コシヒカリ	8/12	9/26	97.9	18.3	388	59.5	3.4

※ほ場は、奨励品種決定調査ほ (予備調査)。播種日は、4/21。移植日は 5/12。栽植密度は、20.8 株/m²(30cm×16cm)、1 株 3 本手植え。

※10a 当窒素成分量は、ふくひびきは、基肥:5、分けつ期:2、幼穂形成期:2。ひとめぼれ、コシヒカリは、基肥:5 (全区で堆肥 1t 連用)。

※玄米重は、ふくひびきは、粗玄米重 (くず米含む)。ひとめぼれ、コシヒカリは、篩目 1.80mm 以上の精玄米重。

イノシシ被害対策について

平成 28 年 1 月 15 日に J A そうま相馬中村総合研修センターで、イノシシの生態や防除方法について近畿中国四国研究センターの江口祐輔先生による講演会を開催しました。その内容を紹介します。



イノシシの被害対策

【ステップ1：イノシシのいやがる環境を作りましょう】

- 食物残さや放任果樹など（タケノコ・桑の実・ビワ・イチジク・カキ・クリ等）のイノシシを呼び寄せる“えさ”をなくしましょう。
（利用しない柿の木を切ったり、収穫した残さや食品残さを穴に埋めるなど。）
- 集落の草刈りやヤブ払いをしてイノシシの隠れ場所をなくしましょう。

【ステップ2：田畑を効果的に囲いましょう】

- 電気柵のワイヤーは、地面から 20・40cm の高さにしましょう。高すぎるとイノシシはワイヤーの下をくぐり抜けてしまいます。
- ガイシ（ワイヤーを通す金具）は外側に向け、杭の押し倒しを防ぎましょう。
- 電気柵の漏電を防ぐため、電気柵周りの適切な除草を行いましょう。

【ステップ3：適切な駆除を行いましょう】

- ステップ1・2をすすめることで、効果的に進みます。

1 イノシシの食性

果物や作物・収穫残さ・牧草など、状況に応じて様々な物を食べます。
収穫しない果実の放置や野菜くず・収穫残さの放置は“餌付け”と同じです。

2 野生動物が人里に侵入する理由

人里には「大量で確実な“えさ”」と「安全な隠れ場所」があるためです。
収穫しない果実等や野菜くず等を穴に埋める、生産している農作物は電気柵等で囲うなど、えさが食べられない環境を作りましょう。
また、イノシシは本来警戒心が強く臆病な動物なので、安心して隠れられる草むらやヤブを刈り払うことで、人里に侵入しにくくなります。

3 イノシシの生態

- ・昼夜を問わずえさを求めて活動します。（夜行性ではありません）
- ・70～80kgの石を持ち上げて動かすことができます。
- ・年に1回、4～5頭の子供を出産します。（例外として子供が捕獲されると母親はまたすぐに子供を産みます）
- ・イノシシは障壁を飛び越えるより「くぐる」か「押し倒す」ことを優先します。

4 イノシシの学習能力

“えさ”があるから食べに来ます。“えさ”が食べられないとわかると食べに来ません。イノシシは学習能力が高いため、“えさ”がない、食べられないとわかると、食べに来なくなります。

5 忌避資材

匂い（木酢液・クレオソート等）、音（爆音器・ラジオ等）、光（フラッシュ・照明光等）など忌避資材の効果は一時的なものです。イノシシは忌避物質を嫌っているのではなく、環境変化に警戒しているだけです。環境の変化に慣れてしまうとイノシシはまた戻ってきます。

イノシシに対する誤った常識？

★イノシシはミミズを食べる？

ミミズは好物ではありません。えさがない環境で、『食べられるもの』だから食べているだけです。

《試験》捕獲したイノシシに穀類を与えて餌付けをした後、ミミズを与えても食べませんでした。

★イノシシは柵を跳び越える？

イノシシは 1.4m の高さを飛び越えることができます。しかし、野生での足のけがは死活問題となるため、安易には飛び越えません。まずは、くぐり抜けようとしてます。

目指せ！園芸復興！！「新未来園芸プロジェクト」紹介シリーズ！

【新未来園芸（新たなふくしまの未来を拓く園芸復興）プロジェクトとは？】

福島県のさらなる園芸復興を図るために、各産地の重点品目を集中して支援・推進することを目的としたプロジェクトです。平成 25 年度から平成 32 年度までの 8 年間で推進期間となります。相双農林事務所農業振興普及部では、「トマト」、「ねぎ」、「にら」、「日本なし」、「トルコギキョウ」を選定しました。今年度の「みどりのこだま」では、これら品目の取組内容と成果についてそれぞれ紹介していきます！

第4弾 ねぎ ～太く！長く！息づく産地へ～

【平成 25 年以前の状況】

相馬地方のねぎは、夏季冷涼かつ冬季温暖な気象条件を活かして古くから栽培されており、平成 22 年の生産者は 46 名、栽培面積は 7.5ha でした。



JA 集荷場に出荷調製機器が整備され、大規模生産者は調製の委託も可能に



夏ねぎの品質も着実に安定してきている

【取組と成果】

ねぎは、放射性物質を吸収しにくいことに加え、機械化一貫体系が確立されていることから重点推進品目に位置付け、「①機械化・省力化技術の普及による大規模生産者の育成」、「②生産技術の向上」、「③夏ねぎの生産拡大」を目指し、様々な取組を展開してきました。

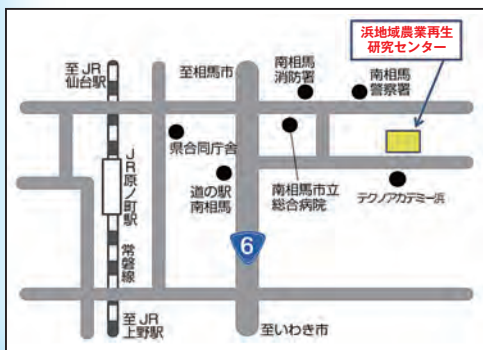
平成 27 年の生産者は 47 名、栽培面積は 17.2ha と拡大するとともに、夏ねぎの取組も増えてきており、確固たるねぎ産地の形成に向けて突き進んでいます。

研究拠点 『浜地域農業再生研究センター』 3 月開所！

南相馬市原町区萱浜地区に整備している研究拠点『浜地域農業再生研究センター』が、3 月末に開所することとなりました。

この施設は、原子力災害で大きな被害を受けた避難地域等の営農再開・農業再生を図るため、国や県の試験研究機関が開発した基幹技術等をベースに、現地環境に対応した様々な調査研究を行うこととしており、農業者が安心して将来に夢と希望を持って農業に取り組めるよう得られた研究成果を直接現場に還元するなど、農業者の実践を強力に後押しし、一日でも早い営農再開を支援することを目的としております。

なお、実証研究の課題設定や研究成果の普及にあたっては、市町村毎に除染の進捗や復興状況等が大きく異なることから、市町村や農業者などの地域の意向を踏まえるとともに、農林事務所（農業振興普及部、農業普及所）と一体となって取り組むこととしております。



<主な研究内容>

- ◆農地や用水など生産環境中の放射性物質の動態等の調査研究や突発な事象が発生した場合の要因解析。
- ◆除染後農地の保安全管理や地力増進、広域的な鳥獣害防止手法の実証など本格的な営農再開までの間の課題に対応する研究。
- ◆ほ場での作物栽培を対象とした吸収抑制対策の実証や既存技術の最適化・体系化の研究。
- ◆遠隔操作技術、情報通信技術（ICT）等を活用した超省力技術や環境制御型園芸施設等周年栽培技術の実証など、これまで地域に導入されていなかった新たな農業に関する研究。